

COVID-19 ワクチン接種後発症の筋痛性脳脊髄炎・慢性疲労症候群 28 症例に対するビタミン D 補充療養指導の効果

抄録

背景と目的

COVID-19 罹患後に長引く症状が報告されているが、COVID-19 ワクチン接種後にも同様の症状を呈する場合がある。中には筋痛性脳脊髄炎・慢性疲労症候群(Myalgic Encephalopathy/Chronic Fatigue Syndrome 以下 ME/CFS)の診断に至る症例がある。当院のワクチン接種後症候群の患者 80 例の内、International Association for Chronic Fatigue Syndrome/Myalgic Encephalomyelitis による Primer for Clinical Practitioners 2014 Edition の診断基準に基づき ME/CFS と診断された 28 症例についてレトロスペクティブスタディを行った。

方法

2022 年 8 月から 2023 年 12 月の間に COVID-19 ワクチン接種後に ME/CFS を発症した 28 症例について 25OH ビタミン D 血中濃度を測定した。ビタミン D 補充療養指導として、食事指導、日光浴指導、経口ビタミン D 補充等を行い、血中ビタミン D 濃度変化、症状の改善について評価した。

結果

初診時の血中ビタミン D 濃度は ME/CFS と診断された 28 例中 27 例で不足または欠乏状態であった（中央値 15.2ng/mL、QD 3.725）。ビタミン D 補充療養指導で血中ビタミン D 濃度の上昇を認め（中央値 28.8ng/mL、QD 3.25）、それに伴い ME/CFS の診断基準を構成する症状数は減少し（中央値 10→4）、28 例中 23 例（82.1%）が ME/CFS から離脱した。特に顕著に改善されたものは睡眠に関する問題および自律神経に関する症状であった（改善率はそれぞれ 71.4%、67.9%）。

結論

COVID-19 ワクチン接種後の ME/CFS では、血中ビタミン D 濃度が不足ないし欠乏している症例に対してビタミン D 補充療養指導の効果が期待できる。今後、COVID-19 罹患後の ME/CFS も含めランダム化比較試験での検討を行う予定である。